
研究所だより

第332号
2013年7月5日
発行：土佐清水市教育研究所
TEL 82-3016

<地域学習会>

土佐清水市に初めて着任された先生方を対象に地域学習会が竜串福祉センターで開催されました。

福祉センター館長の中嶋さんによる竜串地域の実態と現状、地域在住の浜口さんによる「部落問題に関わって」と題して講演をいただきました。

浜口さんの主な話の内容として、

- ・差別の歴史と、自分の歩みを振り返る
- ・予断と偏見を抜きにして部落差別問題と向き合う
- ・何故、「寝た子を起さすな論」が通用しないのか

わずか40分足らずの時間しかなかったのですが、浜口さんの生き様と思いを熱く語っていただきました。

【地域学習会の感想】

- ①. 知ることが大事!! という言葉が印象に残っています。
本質と問題を学ぶことの大切さ、人を大切にすることを子ども達と共に考えていきたいと思えます。間違いを間違いと言える心と勇氣。姿を変える差別には学んでいくときに立ち向かえることのできる力など、伝えていくことはたくさんあると思えます。
子ども会のある学校も初めてですので、私自身、地域のことから学んでいきたいと思えます。
- ②. 清水地区を知るよりよい機会となりました。歴史等、様々なことを教えてもらい、これからの参考にしたいと思います。また、浜口さんの講話は幅広い視点で考察されていて、同和問題に取り組むことが色々な差別意識を変えることにつながっていくということを、改めて感じました。とても良い研修になりました。ありがとうございました。
- ③. 今日は、貴重な時間、研修の場を設けて頂きありがとうございました。
土佐清水市の現状や浜口さんの貴重な話を聞かせて頂いてとても勉強になりました。
今後、今日学習した内容を頭に入れ、土佐清水市で勤務していきたいと思えます。ありがとうございました。
- ④. ネット上の恐ろしい書き込みについて心を痛め「自分たちを殺せ」と言われているように感じると話された浜口さんの人間性に触れることができたように思います。
広い視野をもって人権について考え、これからどう行動していけばよいのか考える機会になったと思えます。「経済や武力などでなく、対話や交渉で解決していく」大切なことと思えます。
どんなことを発言しても受け入れてもらえる雰囲気、解放的な学習会だったと思えます。人権教育の原点にかえることを気づかされました。
- ⑤. 久しぶりに熱い話を聞いて、子ども達の仲間作りにまずは力を入れなければと思いました。
歴史学習を校内研で行った時代から比べると、人権教育の内容が広がったことで、同和教育について学習する時間が少なくなっていました。今の学校の流れにまだついていけずにばたばたしていますが、教育計画をもう一度じっくり読んで、勤務校の人権教育内容を確認していきたいと思えます。

今日は、中嶋さんと浜口さんのお話を聞いて勉強になりました。ありがとうございました。

- ⑥. テレビやインターネット等、メディアの影響力が強い現代、情報を取捨選択する力、自分の頭で考え、自分の心で感じるということが非常に大切になっていると感じます。子ども達も大人も、周囲の雰囲気流されがちであり、それが差別やいじめにもつながっているようです。どのような情報を選ぶのか、相手はどう感じると思うのか、そういった力をどんどんつけていかななくてはならないと考えます。
部落問題は、自分たちの身近で起こる理不尽な差別として、「何がいけないか、どうしていけないか」を考えさせることで、それらの力を養っていくきっかけやポイントになることができると感じました。
様々な問題が多様化、複雑化している現代でも対応できる教育が必要だと思えます。
- ⑦. 地域学習は、久しぶりで、薄れかけていた意識が改めて学習でき、思い起こすことができました。
「寝た子を起さすな」は、年のいった人は、知らない者にわざわざどうして・・・と言う考え。そして、差別意識が根強くあるように感じる場合があります。それは「おかしい」ということは言っても、なかなか考えを変えさせるだけの正しい知識がないので、難しさを感じています。
悪いことは悪いと言える子ども達を育てよう頑張っていきたいと思えます。
今日は、本当にありがとうございました。
- ⑧. 土佐清水市については、全くと言っていいくらい知りませんでした。今日、二人のお話を聞かせて頂き、本当にありがとうございました。
川を、移動していたことも初めて知り、びっくりしました。「なんぞ!!」と思えました。
浜口さん・・・これからよろしく願います。また、お話を聞くこともあると思えます。
部落差別・・・ネット上の書き込み等、陰湿になっています。学校教育でもしっかりと取り組みたいと思えます。
これからよろしく願います。(時間がないので、これでごめんなさい)

<夏季休業中教育研究所行事予定>

- ①. 7月25日(木) ICT講座
会場-清水小学校
講師-白井 裕史 先生(高知県教育センター指導主事)
- ②. 8月1日(木) 教研推進委員会
会場-土佐清水教育センター
- ③. 8月19日(月) パソコン講座「プレゼンテーションを楽しもう」
会場-清水小学校
講師-山崎 源生 先生(下田中学校)
- ④. 8月21日(水) 一日教研
午前:全体会(くろしおホール)
講師-金山 元春 先生(高知大准教授)
午後:部会(場所は各部会で)
- ⑤. 8月26日(月) あすなろネットワーク
会場-土佐清水教育センター
講師-増田 佳歩 先生(清水中SC)

<あすなろネットワーク>

講師に、高知県心の教育センター 合田 佳子 先生をお招きし、「子ども理解と仲間作り」と題して、第2回あすなろネットワーク研修会を開催しました。

子どもの発達

	重要な対人関係	重要なこと
乳児期(0～1歳)	母親的人物	基本的信頼感 甘え
幼児初期(1～3歳)	親的な人物	しつけ
幼児後期(3～6歳)	基本的家族	遊ぶ まねをする
学童期(6～12歳)	近隣 学校	勤勉性
青年期(青春期) (12～20歳)	仲間集団 モデル	自己同一性=自分自身であること

思春期の特徴

1, 心身の急激な発達

- 大人との上下関係で安定していたものが、対等な関係を求める
- 権威ある大人の教える価値を取り入れる→自らの経験や学習に基づいて、価値や信念等を形成していく

大人に反発する 大人に理想を求める

2, 親子関係の変化

- 自己中心的な物の見方→客観的な視野
 - ・親を理想化する見方→親を一人の普通の人としてみる
 - ・親の限界を知る
 - ・個人の自由についてなどに、親子の見解の不一致

反抗的な言動、距離をとる

思春期は

- ・子どもの世界から大人の世界へ
- ・自分がどんな個性や能力や特性を持った人間かということを見つめる時期
- ・自己探求の時期
- ・自分とは何か 自分はどう生きていきたいのか
「苦労しながら『自分』という内面を掘り下げて、基本となる柱を建てているところ」

自分という建物の「内面工事中」

思春期の心

揺らぎながら成長している心
社会的に適応するようにコントロールしていくためには

自尊心の高さが大切

自分がいかに大切な存在なのかを実感できるような体験を！

思春期の成長を支える

支えるのは、様々な『大人』の力
様々な「大人の力」を借りる(大人モデルになってもらう)

親や先生以外で信頼できる大人がいると、子どもの世界は広がり、安定する

【意見・感想】

- ・とても楽しく、又、思春期、子どもの成長など勉強になりました。
「感情を出す、ことの大切さを知りました。今まで我慢させていたことがたくさんあったように思います。
今日、参加して良かったです。保育の中に生かしていきたいと思います。

- ・パワーポイントの資料で配布されたものに、詳細が途中で出てきたものがのってなかったものがほしいです。
ジブリのアニメの例は、分かりやすくてよかったです。

- ・心の土台をしっかりと築かなければいけないことを再確認しました。
ゲームは仲間作りにととても良いと思いました。
冷房が少しきつかったです。

- ・もう一度再確認できる内容でわかりやすかったです。後半も楽しく研修ができました。ありがとうございました。

- ・子ども達や親と楽しい触れ合いを持てるゲームを用意していただき、とても参考になりました。実践したいと思います。

- ・とてもわかりやすくていねいに話がされていて、集中して聞くことができました。これからの仕事の現場で生かしていきたいとおもいます。ゲームもとても楽しくできました。

- ・保育をする上で、最も大切なことだと思いました。今後も心がけたいです。後半でしたゲームの数々、子ども達と楽しみたいと思いました。パズル好きなので、広告パズル、実践できればと思いました。

- ・愛着の形成～思春期の基礎は、幼児期などの関わりが大切なことなど、保育期の子どもを持つ母親や父親に研修して欲しい内容でした。ありがとうございました。

- ・構成的グループエンカウンター活動について、自分の学級でも試してみたいと思えるアイデアをいただくことができた。

- ・エンカウンターや心ほぐしのゲームを授業の最初に取り入れたいと思います。心ほぐしが必要な場合が多くなってきているのでとても参考になりました。親向きにも必要だと痛感しました。ありがとうございました。

- ・時期ごとに重要なことがあり、満たしていくことの重要性を感じた。コミュニケーションをとるうえで、それぞれが和み、近づける方法が知れて良かったです。ありがとうございました。